

令和5年度 研究の概要

B2グループ

⑧扇台中 小川寛陽
守山中 上田夏瑠

円上中 森井理奈
東陵中 高橋源

南光中 齋藤郁実
神の倉中 高山孔太

対話的な学びを充実させた数学学習（仮）

1 研究のねらい

学習指導要領解説(2017)でも注目されていたように、今日、人工知能、中でも生成 AI (Generative AI) が飛躍的な進化を遂げている。昨年には「ChatGPT」が公開され、利用者と流暢で対話的なやり取りができることで注目を集めている。さらには、文章の構成やプログラミングまでも可能であるため、活用の場は今後も広がりを見せそうである。その中で私たち人間に求められるのは、人工知能に思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるという最も大きな強みを生かすことである。そこで、学校教育において、生徒たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることをねらいとする。このねらいを達成するために、対話的な学びに焦点を当てる。根拠を明らかにして伝え合わせたり、学習内容を振り返らせたりすることで、生徒の対話的な活動を促進し、充実した学びを構成することが、深い学びにつながっていくと考える。

2 研究の内容

研究のねらいに迫るために、次のような手立てを考える。

手立て1 根拠を明らかにして伝え合う場面の工夫

同じ課題に対して、解決に向かう複数のアプローチを取り上げ、その解法のよさや根拠について伝え合う活動や、プリントやカードを用いながら、解決のために利用した操作について、その操作が有効であると判断した根拠について考える活動を取り入れる。

手立て2 学習内容を振り返る場面での工夫

チャート図やループリックなどの活用や振り返りシートの工夫をすることで、生徒が自身の理解度をまとめる活動を取り入れる。生徒に自分の理解度を把握させた上でステップアップを目指す意欲を高める働きかけをすることで、生徒間の対話的な活動を促進させる。

【参考文献】

文部科学省（2017）『数学編中学校学習指導要領解説』